

the
good growth
plan

2019年度 進捗報告



目次

私たちのコミットメントの達成と将来への展望 i

グッドグロースプランは、シンジェンタの作物保護および種子の両事業の成功と長期的発展を推し進める上で核となります

6つのコミットメント 3

6つのコミットメントは、生産者が急速に増加する世界の人口に、持続可能な方法で十分な食料を供給できるように支援しています

作物の生産効率を高める 4

ベンチマークファームに先立ち、リファレンスファームの収穫高を向上させ、養分効率や農薬の散布効率の20パーセント以上の改善を記録しました

より多くの農地を回復する 5

2020年の目標を既に500万ヘクタール近く上回りました。引き続き、土壌の健全性の重要性について、認識を高めていきます

豊かな生物多様性を促進する 6

世界中で展開しているシンジェンタの生物多様性プロジェクトは、農家やその周辺の地域社会に測定可能な恩恵をもたらしています

小規模農家を支援する 7

接触した小規模農家は2,000万戸以上に達し、実質的に生産性が向上しました。しかし、シンジェンタの取り組みはまだ終わりません

農業従事者の安全を守る 9

2020年の目標である2,000万人を超え、4,240万人というかつてないほど多くの参加者にトレーニングを実施しました

全ての働き手に配慮する 10

サプライチェーンの99パーセントを網羅し、インドの種子サプライチェーンでは、業界をリードして賃金引き上げに取り組んでいます

進捗状況 数値データ 12

データを公開することで透明性を高め、責任ある行動を推進し、関係者との確かな情報に基づいた対話を促しています

グッドグロースプラン

私たちのコミットメントの達成と 将来への展望

グッドグロースプランは、シンジェンタの作物保護および種子の両事業の成功と長期的発展を推し進める上で核となります。グッドグロースプランは地球の生態系と農業の未来を確かなものにするために改善が不可欠な分野に対して、6つのコミットメントを提唱しています。

2013年のグッドグロースプラン導入時に高く厳しい目標を設定し、2020年までの達成を目指しました。予定より1年早く、2019年までに目標をほぼ達成しました。

目標達成への道のりを進み始めて以来、私たちは非常に重要な知識をいくつも得ることができました。この知識を、2020年発表予定の次のグッドグロースプランの進化につなげていきます。

グッドグロースプランを開始した当初、目標を達成するまでに世界がどのくらい変化を遂げるのか予想がつきませんでした。政治的、社会的なトレンド、農業技術、そして私たちのビジネス戦略でさえ、6年経った今から見れば、かなり違ったものになっています。

そのため、将来のコミットメントを設定する際は、柔軟性が最も重要であり、多くの場合、5年目標が最も実用的であることを、経験から知識として得ることができました。

パートナーシップから力を引き出す

これまでに得た最も重要な知識の1つに、パートナーシップの真の力があります。パートナーによるサポートと購入活動がなければ、グッドグロースプランでこれほどの成功は成し遂げられなかったことでしょう。2019年にザ・ネイチャー・コンサーバンシー(TNC)とともに発表した、グローバルな「自然のイノベーション」に向けたコラボレーションは、まさに心躍るものでした。この数年に渡るコラボレーションでは、世界中の主な農業地域で土壌の健全性、資源効率、生息環境保護を促進し、シンジェンタの研究開発能力とTNCの科学と自然保護に関する専門知識とを結集させ、持続可能な農作業の規模拡大を目指しています。

パートナーと共に同じ目標に取り組むことが大きな価値を生むことを、私たちは知っています。

中国、東ヨーロッパ、南米では、科学とテクノロジー、政策と商業的な問題、そして特に資金調達メカニズムと市場といったさまざまな要素間のギャップを埋めることで、真に建設的な変化と規模の拡大が可能になることを目の当たりにしました。

たとえば、ブラジルのマットグロッソ州では、シンジェンタ、TNCなどのNGO、地方自治体が参画した環境パートナーシップであるSoja+Verdeプロジェクトを実施しました。このプロジェクトでは、農家に対し、農地内の原生林や再生林の区域を保護するための政策的枠組みであるブラジル森林法の順守に向けた支援を行っています。近隣の農家が手を携えて取り組めばこそ、農地は野生生物が自由に訪れることのできる、動物の往来に適した場所へと変わります。

ハンガリーでは、浸食を抑えて健康な土壌を維持するシンジェンタのCONTIVOソリューションを通じて、引き続き農家を支援しています。

また、国際連合砂漠化対処条約(UNCCD)と共に、主要な政策立案者や意思決定者と連携して、農家や政策立案者が必要とする土地や事業に関するサポートを提供しています。

中国では、全国農業技術普及センター(NATESC)および農業農村部(MARA)と連携して、農家を対象に農薬の安全な使用や効率的な農作業に関するトレーニングを実施しています。2000年より、シンジェンタと地元のパートナーが主催するトレーニングが、中国全土の農家の会合で実施されてきました。トレーニングでは、農薬の取り扱い時や噴霧時の自己防御方法について、安全規制に準拠した手法を用いて指導を行っています。

2019年には、農家向けにドローン使用の安全な手順に関するトレーニングを開始しました。

グッドグロースプランを通して実績を築き上げてきたことで、世界中で利用できる安全で持続可能な農産物認証の自主基準を掲げるGLOBALG.A.P.をはじめとした、大きな影響力を持つ優れたパートナーから信頼を得ることができました。

グッドグロースプランを通して、シンジェンタが農家に接触し、トレーニングを実施し、影響力を発揮していることが証明されました。GLOBALG.A.P.は、このことを認識した上で、GLOBALG.A.P.認証を目指すアルゼンチン、コスタリカ、インド、メキシコ、米国の農家を対象としたトレーニングの実施をシンジェンタに委任しています。これは、持続可能性を尊重する考え方を生産者に普及させる貴重な機会となっています。

データを知識に変える

デジタルテクノロジーは、農業に変革をもたらす影響力を持っています。グッドグロースプランの導入以来、農業におけるデジタルテクノロジーの使用は飛躍的に拡大しており、今後もその勢いは変わらないでしょう。次のグッドグロースプランによって生産者とステークホルダーに同等の恩恵をもたらすには、進捗状況の測定においてデジタルツールの使用を拡大することが重要になります。

シンジェンタは、オープンデータアプローチを提唱する最初の農業企業として、オープンデータ研究所(ODI)と数年にわたって連携してきました。その中で、ベストプラクティス基準をデータに適用して、他のステークホルダーが使用できるように取り組んできました。グッドグロースプランを通して収集した、かつてないほど大量のデータを簡単に共有し、アクセスできるようにしたことで、研究機関やその他のパートナーたちは、より豊かで、知見に満ちた、有益な知識を得ることができるようになりました。



シンジェンタは毎年、技術だけではなくコラボレーションを通して農業セクターに発展的な影響を与えるべく、コミットメントを確認しています。シンジェンタのコミットメントのおかげで、世界中のさまざまな地域社会が、安全や持続可能な農作業について実地的な知識を得られるようになりました。

Flavio Alzueta

Vice President & Chief Marketing Officer
GLOBALG.A.P.

農業および栄養学のためのグローバルオープンデータ(GODAN)に対するシンジェンタの取り組みは、データの統合や交換の方法を標準化して共通の基準を策定することで、研究者たちがさらに優れた知見を得られるようにするものです。

データの調達、共有、分析方法のさらなる簡易化と標準化によって、進行中の生育期に関する農学上のアドバイスを早期に提供できるようになります。

信用、確実性、プライドの獲得

グッドグロースプランのおかげで、シンジェンタは、持続可能な農業の原則をどのように実行するかについて、確実かつ信頼性の高い情報を提供する企業として、農家から信用を得ています。農家レベルの生産性データにより、フードバリューチェーンのはるか先のお客様とも、情報に基づいた対話ができるようになりました。このことが、持続可能な食物生産の最適化に大いに貢献しています。米国での一例を紹介しましょう。ケロッグ社、ザ・ネイチャー・コンサーバンシー、そしてシンジェンタは、農家が環境保全に取り組むことで、天然資源管理がいかに改善し、サギノー湾と五大湖流域の水質がいかに向上したかについて資料をまとめて発表できるように支援し、より持続可能なサプライチェーンの実現に向けて取り組んでいます。

同時に、グッドグロースプランプロジェクトによって、農家は地域社会の中で情報に基づいてさまざまな対話ができるようになりました。

たとえば、米国バレイショ生産最大手のR.D. Offuttは、ミネソタ州のバレイショ農場の非生産的領域に、シンジェンタのOperation Pollinatorによるこの地域専用の種ミックスを植え、環境上多様性に富んだ野花の生息域を作り、花粉を運ぶ虫の数を増やしました。そして生物多様性を大いに高めるだけでなく、花粉を運ぶ生物の活動促進についても地域社会と対話ができるようになりました。

グッドグロースプランが農家とその他のステークホルダーにとって有益であることが証明されただけでなく、従業員が仕事にプライドを持つようになったことで、それが潜在的に人材を引き寄せることにつながりました。職場で社会に有意義な貢献をすることが、人々にとってますます重要になっています。明確な持続可能性を示すことのできる雇用主は、才能とコミットメントを勝ち取ることができます。

グッドグロースプランは、持続可能な農業を推進する飛躍的なイノベーションを起こし続けていくために、この業界に優秀な人材を招き入れ、定着させる重要な役割を果たし続けています。

将来への展望

グッドグロースプランの導入以降、その原則と優先事項は、シンジェンタの事業活動に深く組み込まれています。それは、当社の製品やサービスの改善を可能にするとともに、農家、農村地域社会、地球環境に、測定可能な真の恩恵をもたらしています。そして次のステップは、これまでの進捗状況や、これまでに得た知識を活用することです。

今後の活動では、2018年にさまざまなステークホルダーを招いて開催されたリスニングセッションで得られたフィードバックにも対応していきます。こうしたセッションは、シンジェンタとこの業界は社会から何を求められているのか、さまざまなグループにとって持続可能な農業とは何かを理解する重要な機会となりました。

こうしたリスニングセッションの後、私たちはある決意をしました。それは、イノベーションを促進し、高度に持続可能な農業に特に主眼を置いた技術躍進に向けて、5年間にわたって20億ドルを投資することです。次のグッドグロースプランには、この決意が盛り込まれます。

グッドグロースプランの最初の段階は終わりに近づいています。これまでご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。特に、農家、従業員、国内外の関係官庁、フードバリューチェーンパートナー、NGO、研究機関の皆様には、多大なるご協力をいただきました。皆様の専門技術、知識、熱意のおかげで、私たちのコミットメントは、農家、消費者、そして私たちの地球にとって、実体のある測定可能な恩恵へと変わりました。グッドグロースプランの次の段階に向けて、これからも皆様と共に歩んでまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





作物の生産効率を高める

今以上に多くの土地、水、投入材を使うことなく、世界の主要作物の平均生産性を20パーセント高めます

2014年度～2019年度の進捗と主な成果

18.8%

土地の生産性の上昇率¹



ベンチマークファームに先立ち、リファレンスファームの収穫高を向上させ、養分効率や農薬の散布効率の20パーセント以上の改善を記録しました



より多くの農地を回復する

劣化寸前の農地1,000万ヘクタールの肥沃度を改善します

1,410万

恩恵を受けた農地面積²

2020年の目標を既に500万ヘクタール近く上回りました。引き続き、土壌の健全性の重要性について、認識を高めていきます



豊かな生物多様性を促進する

農地500万ヘクタールの生物多様性を高めます

820万

恩恵を受けた農地面積²



世界中で展開しているシンジェンタの生物多様性プロジェクトは、農家やその周辺の地域社会に測定可能な恩恵をもたらしています



小規模農家を支援する

小規模農家2,000万戸に接触し、生産性を50パーセント向上させます

2,650万

トレーニングや製品の販売を通じて接触した小規模農家の数³

28.5%

小規模農家の土地の生産性の上昇率⁴

接触した小規模農家は2,000万戸以上に達し、実質的に生産性が向上しました。しかし、シンジェンタの取り組みはまだまだ終わりません



農業従事者の安全を守る

開発途上国の2,000万人の農業従事者に労働安全について教育します

4,240万

安全な使用方法に関するトレーニングの受講者数⁵

2020年の目標である2,000万人を超え、4,240万人というかつてないほど多くの参加者にトレーニングを実施しました



全ての働き手に配慮する

シンジェンタのサプライチェーン全体にわたり、公正な労働条件の確保に努力します

99.0%

Supplier SustainabilityプログラムおよびFair Laborプログラムに参加した供給業者⁶



サプライチェーンの99パーセントを網羅し、インドの種子サプライチェーンでは、業界をリードして賃金引き上げに取り組んでいます

1 リファレンスファームの基準年2014年との比較
2 基準年2014年からの累計

3 2019年
4 小規模農家リファレンスファームの基準年2014年との比較

5 基準年2014年からの累計。「小規模農家を支援する」目標のもと、トレーニングを通して接触した小規模農家の数を含みます
6 2019年



作物の生産効率を高める

国連の持続可能な開発目標
2、12、17

ケース
スタディ

持続可能性を測定

持続可能性が消費者にとってますます重要になっている中、食品の加工業者や小売業者は、資源消費量を追跡し、その透明性を確保する手段を模索しています。5年以上にわたり、米国ミシガン州の小麦農家であるRita Herfordさんは、ケロッグ社、シンジェンタ、ある圧搾企業が取り組むGreat Lakes Origin Projectに参加しています。彼女は、シンジェンタの農場管理ソフトウェア「Land.db」を使用して自身の農場の投入材を追跡し、そのデータをケロッグ社と共有しています。このデータにより、Ritaさんは投入材を明確に特定して適用できるようになり、資源効率が改善されました。一方、ケロッグ社はこのデータを使って、二酸化炭素使用量など、農作物の持続可能性に関する情報を小売業者である顧客に知らせています。



Rita Herfordさんは、持続可能性に関する情報を追跡し、顧客と共有しています

持続可能な方法で食料の安定供給を実現するには、作物の生産性に大きな変化が求められます。生産者と連携して、土地や水などの投入を増やさずに、世界の主要作物の生産性を引き上げるべく取り組んでいます。

シンジェンタは、農家ネットワーク全体での土地の生産性、養分効率、農薬の散布効率、温室効果ガス(GHG)排出効率の伸び率について報告しています。2019年には、1,659戸のリファレンスファーム、1,928戸のベンチマークファームがこのネットワークに参加しています。農業気候条件と生産者の特性が均一なファームが、それに応じたクラスターにグループ分けされ、その範囲は世界39か国、作物は19種類に及びます。リファレンスファームは、シンジェンタによって選ばれ、シンジェンタの製品を使用し、最適化された手順に従うように勧められます。ベンチマークファームは、第三者の調査機関によって無作為に選ばれ、各クラスターの農法を代表しています。ネットワーク農家から集められた匿名の集計データは、シンジェンタのウェブサイト一般公開されています。このデータはオープンデータであり、調査目的などで、どなたにもご利用いただけます。

農家のネットワーク

	2019年	2018年	2017年
リファレンスファーム数	1,659	1,443	1,459
ベンチマークファーム数	1,928	2,316	2,630

リファレンスファームが引き続き高い生産性を記録

作物の収穫高、投入材の使用、GHG排出は、環境や市場の状況に応じて変わり、国や年ごとに大きく異なります。しかし、シンジェンタは、6年間のデータから、堅調な上向き傾向にあるという立場で報告を行っています。

GHG排出効率(36.7パーセント)、養分効率(46.8パーセント)、農薬の散布効率(33.4パーセント)については、基準年2014年に対して大幅に改善しました。土地の生産性については、18.8パーセントの向上を記録したものの、2020年までに達成を目指していた20パーセントには1.2ポイント届きませんでした。

土地の生産性の上昇率¹ % **18.8%**



1 リファレンスファームの基準年2014年との比較

リファレンスファームは、6年間のモニタリング期間にわたって継続的に、GHG排出と養分効率でベンチマークファームを上回りました。リファレンスファームの土地の生産性は、ベンチマークファームと比較して、平均12.4パーセント向上しました。

全体的に見て、リファレンスファームの改善は、シンジェンタによる作物生産効率を改善する持続的かつ継続的な取り組みを力強く実証するものです。最新の作物保護製品と種子テクノロジーを使用したことは、生産性の向上に最大級の影響を及ぼしました。これは、世界中のトウモロコシ生産者、および南アメリカとヨーロッパのトマト生産者において特に顕著でした。

より多くの農地を回復する



国連の持続可能な開発目標
2、13、15、17

現在、50パーセントを超える農地が土壌劣化の影響を受けています。シンジェンタは、農家と積極的に取り組み、保護農業を推進しています。この活動は、気候変動のリスクに対応する農業の核として、土壌からの二酸化炭素の排除、土地劣化の防止、食料安定供給の改善、農場および地域社会の回復力の向上、土壌の健全性や肥沃度の強化に役立つとともに、品質の優れた作物をバリューチェーンに提供することを可能にします。

またシンジェンタは、農家の方々と連携を進めると同時に、バリューチェーンパートナー、研究機関、政府機関などの土壌保全に関する意識改革にも努めています。たとえば、シンジェンタは、6年間にわたって国連砂漠化対処条約(UNCCD)ならびに持続可能な開発のための経済人会議(WBCSD)の民間セクターのパートナーを務めています。

2019年には、インドで開催されたUNCCD COP 14で、WBCSD Business Day on Soil, Land and Agricultureの共同スポンサーを務めました。このイベントでは、世界中の土地劣化に立ち向かう事業代表者や主要なステークホルダーが一堂に会しました。この日の主な成果は、この共通の目標達成に向けた視点、コミットメント、政策の優先順位に重点を置いたUNCCD Delhi Declaration from Businessにまとめられています。

より多くの農地に恩恵をもたらす

グッドグロースプランを通じて、シンジェンタは、保全耕うん、輪作、恒久的被覆植物などの手法を用いた持続可能な土壌管理が、多くの土地に良い影響を与えていると報告しています。

2014年以来、シンジェンタは世界44か国で261のプロジェクトを実施し、劣化寸前の農地の肥沃度改善に関して、2020年の目標であった1,000万ヘクタールを超え、計1,410万ヘクタールの農地に恩恵をもたらしました。2019年には、シンジェンタのプロジェクトによって、330万ヘクタールの農地に恩恵がもたらされました。

恩恵を受けた農地面積
(単位:ヘクタール)

1,410万



1 基準年2014年からの累計

デジタルソリューションは、世界中ですまます必要とされています。ブラジルのサトウキビに関するSmartBioイニシアチブは、3年連続でブラジル国内最大のプロジェクトとなりました。190万ヘクタールに恩恵をもたらしたこのプロジェクトは、デジタル農業と

より効率的な手法でより健全な農場を実現

ケース
スタディ

農場の寿命は、土壌の健全性で決まります。Péter Szabadkさんは、ハンガリーで家族と経営する農場を注意深く見守っています。Péterさんは、2015年からシンジェンタのCONTIVOソリューションを使用して、土壌の活力を高め、大雨による土壌の流出を防止しています。保護農業の提唱者となった彼は、農場の被覆作物用の新しい機械に投資し、土壌の保護にさらに取り組むとともに、こうした経験を他の農家と共有しています。土壌の健全性改善の兆候として、Péterさんの農場では、採取した土壌のサンプルにミズが増えてきました。



保護農業により、Péter Szabadkさんは健全で強い土壌を維持しています

統合型の害虫管理を組み合わせることが生産者にとって有益であることを示す典型的な例となっています。SmartBioは、シンジェンタと共同で開発されたサードパーティプラットフォームです。サトウキビ压榨企業は、このプラットフォームを使用して、さまざまなストレス要因の影響を受けやすい地域をマッピングし、それぞれの地域に対して最良の作物管理の方法を選択することができます。

また、シンジェンタは、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、中東、北米で、持続可能性の高い土壌デジタルソリューションの開発を続けています。中国では、定西での土壌の健全性に関するトレーニングや、齊河縣でのワラ混和に関するトレーニングが功を奏し、過去2年間で前向きな傾向が見られるようになりました。

豊かな生物多様性を促進する



国連の持続可能な開発目標
2、15、17

ケース
スタディ

ボーンホルム島を受粉生物の楽園に

デンマークのボーンホルム島では、花が満開です。2018年から、シンジェンタ、ボランティア農家、地元のパートナー組織は、シンジェンタのOperation Pollinator™の一貫であるBornholm Blomstrer (ボーンホルム島開花) プロジェクトを通じて、島中の農場の周囲や野原に花を植えています。2年目となる今年は、さまざまな虫や動物に生息地と資源を提供するために、8ヘクタールもの土地に花を植えました。参加した農場の花を植えた場所には、手入れされていない水路や休閑地より多くの野生のハチやミツバチが見られました。



ボーンホルム空港の屋外に植えられた野花

品種改良、受粉、食物の多様性を支える生物多様性は、農業の持続可能性にとって無くてはならないものです。シンジェンタは健全で多様性に富んだ生態系を保護し、野生動物の生息域を広げる活動を展開しています。

主要な戦略として、畑や水路に沿った生産性の低い耕作地を管理することで、野生生物の生息域をつなぐ連続性のある土地の保護に努めています。さまざまな機能を持つこうした畑の境界は、より生産性の高い土地を持続可能性の高い方法で強化する役割を果たし、土壌と水の緩衝地を提供して、その地域に生息していた生物を呼び戻します。生物多様性を高める手法には、保管林や森林農業の復元や維持も含まれます。

生物多様性の目標をオーバー達成

2014年以来、シンジェンタは、世界41か国で366のプロジェクトを実施し、2020年の全体目標である500万ヘクタールを上回る計820万ヘクタールの農地に恩恵をもたらしました。2019年にシンジェンタのプロジェクトは、前年の2倍以上となる180万ヘクタールの農地に恩恵をもたらしました。この増加は主に、北米のSyngenta Sustainable Solutionsプログラムによる改善によってもたらされたものです。

恩恵を受けた農地面積
(単位:ヘクタール)

820万



1 基準年2014年からの累計

ヨーロッパ、アフリカ、中東、および中国でも増加が見られました。ヨーロッパ、アフリカ、中東では、河畔林を含む複数の機能を持つ畑の境界が、シンジェンタのポートフォリオにおける生物多様性実現の手段として、最もよく採用されています。中国では、主にOperation Pollinator™ and Hives on Farmプロジェクトの展開によって増加がもたらされました。

世界中でシンジェンタが投資している生物多様性プロジェクトは、農家やその周辺の地域社会に恩恵をもたらし続けています。農家にとって好ましい恩恵として、土壌の養分循環、作物の受粉、害虫防除、水質などの改善が挙げられます。また社会全体においても、遺伝的多様性、二酸化炭素削減、洪水の軽減、レクリエーションの機会といった利益をもたらしています。

小規模農家を支援する



国連の持続可能な開発目標

1, 2, 17

発展途上国で消費される食料の80%以上を小規模農家が生産しています。小規模農家の作物の生産性は大規模農場と比較してかなり低くなっており、このギャップを大きく埋めることが、食料の安定供給と貧困の削減につながると考えられます。

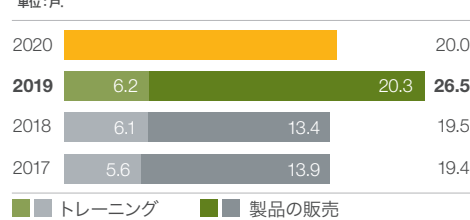
シンジェンタの売上の半分以上は、成長経済圏の小規模農家が占めています。こうした小規模農家と私たちの接点のほとんどは、地元の販売代理店や小売業者を通じた間接的なものとなっています。

シンジェンタは、パートナーと連携して、生産性、効率性、採算性を高めるべく、小規模農家にツールとトレーニングを提供しています。新しい技術や農法に関するトレーニングにより、小規模農家は収穫高が増加し、市場に参入しやすくなります。シンジェンタは、農家との接触を通して、活発な農村地域社会の復元と維持をサポートし、自給自足を超えた農家の発展を可能にしています。

販売とトレーニングを通じて接触数が増加

シンジェンタは、販売とトレーニングを通して接触した小規模農家の戸数について報告しています。2019年は、両方のチャンネルを通じて計2,650万戸の小規模農家と接触しました。この数字は前年比36パーセント増で、2020年の目標である2,000万戸を上回っています。

トレーニングや製品の販売を通じて接触した小規模農家の数 **2,650万戸**



販売を通じて、前年比52パーセント増の2,030万戸と接触しました。中国のみを見てみても、2018年比で82パーセント増となる1,390万戸の小規模農家に接触しました。これは主に、種子処理製品MAXIM®と、新製品MAXIM® Advanceの販売が伸びたことによるものです。

トレーニング活動を通じて、2019年は620万戸の小規模農家に接触しました。この数字は、2019年に世界中でトレーニングを提供した計860万人の73パーセントに当たります。これについては、「農業従事者の安全を守る」コミットメントでも報告しています。トレーニングを提供した小規模農家の90パーセントは、アジア太平洋地域の小規模農家です。

小規模農家は世界の食糧庫

世界の摂取カロリーの
半分を生産

50%
世界の摂取カロリー

発展途上国の食糧の
80%を生産

80%
発展途上国の消費量

ご存知ですか？

シンジェンタは、小規模農家の土地の生産性の平均上昇率が向上したことについても報告しています。2019年に、小規模農家リファレンスファームの土地の生産性は、基準年2014年と比較して28.5パーセントという平均上昇率を示しました。これは、小規模農家ベンチマークファームの平均上昇率の約3倍です。しかし、小規模農家の生産性上昇率の2020年までの目標である50パーセントには届きませんでした。

小規模農家の土地の生産性の上昇率¹ % **28.5%**



¹ 小規模農家リファレンスファームの基準年2014年との比較

これは、シンジェンタと長年連携している小規模農家リファレンスファームが、既に平均基準生産性を上回っているためであると考えられます。これらのファームは、所属するクラスター内の他の農家に対してデモンストレーションファームとしての役割を持っているため、これは重要なことです。

ケース
スタディ

小規模農家として影響力を持つ

Noah Naisali Kadimaさんは、農業を始めた時にはほとんど知識がなかったため、様々な情報源からアドバイスや提案を得ようとしていました。2015年にシンジェンタのグッドグロースプランのリファレンスファームになって以来、ケニアのナイロビ郊外にある彼の小さな農場は成功を収めつつあります。作物保護製品の安全で効率的な使用方法に関するトレーニングを受けた後、Noahさんは収穫高と採算性を改善しながら、コストを大幅に改善することができました。また、Noahさんは、地域社会の他の生産者に優れた農法を導入するように勧め、自身の農場で開催したデモンストレーションデイでトレーニングを実施しました。



← Noah Kadimaさんは、ケニアでタマネギ、トウガラシ、トマトを栽培しています

農業従事者の安全を守る



国連の持続可能な開発目標
2、3、17

ケース
スタディ

ドローン技術を使った安全な農業

作物保護製品の応用技術がますます進歩する中、農家はこうした新しいシステムを安全に使用方法を把握する必要があります。最近開発された技術に、ドローンを使用した作物保護があります。Shi Lijieさんは、シンジェンタの安全トレーニングアンバサダーであり、中国遼寧省大劉屯の郊外で運営されている農業相談サービスのリーダーも務めています。2006年から、農家を対象に農薬の安全で効率的な使用方法に関するトレーニングを提供し、シンジェンタをサポートしています。Shi Lijieさんは現在、地元の生産者に対するトレーニングセッションで、ドローンを使った安全な使用方法についての説明も行っていきます。2019年は、インターネットでの動画配信や対面でのデモンストレーションにより、3,000人以上の農家にトレーニングを実施しました。



← Shi Lijieさんは畑で農家に農薬の安全で効率的な使用方法について助言しています

シンジェンタは、農業分野の労働安全衛生の向上に取り組んでいます。シンジェンタ製品の正しい使用を徹底することは、当社のビジネスモデルの骨格を成すものであり、このことが農業従事者や一般の人々の健康や安全を守るだけでなく、環境保護にもつながります。

特に開発途上国の小規模農家においては、作物保護製品の安全で責任ある効率的な使用方法が農村地域の福祉において非常に重要であるため、重点的な対策が求められます。

トレーニングを受けることで顧客は、シンジェンタの製品を安全に使用するだけでなく、必要に応じて適量を使用できるようになるため、環境への影響を最小限に抑えると同時に、投資利益率の最大化も期待できます。

安全な使用に関するトレーニング活動を拡大

シンジェンタは、農場作業員、農場所有者、小規模農家、製品販売業者、従業員など、作物保護製品に触れる可能性がある方々のうち、作物保護製品の責任ある取り扱いと安全な使用に関するトレーニング活動に参加した方々の人数について報告しています。

2019年に、シンジェンタは860万人の方々にトレーニングを実施しました。これにより、2020年の全体目標である2,000万人を超え、2014年より累計4,240万人を突破しました。

今年の数字は、主にアジア太平洋地域での大幅な増加が、南米での若干の減少によって相殺され、2018年との比較では微増となっています。

安全な農薬の使用方法に関するトレーニングの受講者数¹ 単位:人

4,240万



¹ 基準年2014年からの累計。「小規模農家を支援する」目標のもと、トレーニングを通して接触した小規模農家の数を含みます

アジア太平洋地域は、世界中のトレーニング参加者の中でも大きな割合を占めています。2019年は、サトウキビ、トウモロコシ、キャッサバのバリューチェーンとの新しいパートナーシップをタイで開始しました。

南米は全体的に減少しています。ブラジルでのトレーニング参加者が大幅に増加したものの、この増加は、南米北部でパートナーによるトレーニング実施が減少し、シンジェンタが直接実施するようになったことで相殺されています。

全ての働き手に配慮する



国連の持続可能な開発目標

2、8、17

シンジェンタはサプライチェーン全体の公正な労働条件の実現に取り組むとともに、供給業者が最も高い倫理基準を満たすよう指導する責任を認識しています。シンジェンタは、直接的に主な調達活動を行っている種子、化学薬品、花のサプライチェーンにおけるFair LaborプログラムとSustainabilityプログラムへの加入率について報告しています。

2019年は、シンジェンタの全供給業者の99パーセントがこうしたプログラムに加入しました。加入率が100パーセントに到達しないのは、サプライチェーンの中で常に変化が起こっているためであり、今後も引き続き全サプライチェーンの加入を促進していきます。

Supplier Sustainability
プログラムおよびFair Labor
プログラムに参加した
供給業者¹ %

99.0%



1 Supplier SustainabilityプログラムおよびFair Laborプログラムに参加した供給業者の98パーセントが種子サプライチェーンです

種子サプライチェーンで公正な労働環境を整備

42,000戸の農家から成るシンジェンタの種子サプライチェーンは、Fair LaborプログラムとSustainabilityプログラムの対象となる供給業者の約98パーセントに相当します。シンジェンタの報告には、シンジェンタのFair Laborプログラムに参加する種子生産国と種子供給農家の割合が含まれています。

2004年から公正労働協会 (FLA) と連携して、この複雑に入り組んだサプライチェーンに対応するFair Laborプログラムを開発し、展開してきました。このプログラムでは、農家の労働状況についてアセスメントを行っています。健康と安全、児童就労、労働者の権利に関する意識、賃金や手当、労働時間、ハラスメントやいじめ、差別などがその対象となります。

2019年、全種子供給農家の99.3パーセントがこのプログラムに加入しました(2018年は99.2パーセント)。種子生産国33か国のうち29か国が参加していることになります。残りの4か国にある303戸の農家については、Fair Laborプログラムを実施する必要があります。

インドで実施しているFair Laborプログラムは、2015年に公正労働協会 (FLA) から認証を受けました。シンジェンタは農業業界で初めてFLAの認証を受けた企業となり、サプライチェーン全体に公正な労働基準を徹底するシステムや手順が良好な状態で備わっていることが実証されました。

また今回、FLAとシンジェンタは、最低賃金の問題がインドの農場作業員コミュニティ全体に影響を与えていることを認識し、同業者の意識を高めることを目指して、最低賃金の問題に丸となって取り組む活動を開始しました。シンジェンタはFLAと連携して、複数のステークホルダーが参加する協議会をハイデラバードで開催しましたが、企業間の合意には至りませんでした。ただ、この場を設けたことで、シンジェンタは、賃金の問題に取り組む6段階のアクションプランを策定し、2つの地域と2種類の作物で試験を開始することになりました。この試験から励みとなる結果が得られ、FLAは主要なポイントを盛り込んだ報告書を発表しました。詳しくは、www.fairlabor.org をご覧ください。

シンジェンタは引き続きFLAの要件に従ってグローバルプログラムを実施し、各国でFLA認定を獲得できるように取り組んでいます。

化学薬品サプライチェーンの持続可能性パフォーマンスのアセスメントを行い、改善を実現

シンジェンタはSupplier Sustainabilityプログラムを通じて、化学薬品供給業者の健康、安全、環境基準、社会基準のアセスメントを行い、必要な改善を促しています。

本プログラムでは、当社の監査員による現地監査と、化学薬品業界を対象としたTogether for Sustainability (TfS) イニシアチブによる監査またはアセスメントを実施します。また、当社の品質基準と比較して供給業者のパフォーマンスのアセスメントを行い、ギャップを特定した上で、供給業者に必要な改善措置を取るよう促します。

2019年、化学薬品供給業者の約94パーセントがSupplier Sustainabilityプログラムに参加しました。供給業者ベースの自然変動により、年間を通して加入率は安定していました。たとえば、中国では一部の省で生産が一時的に停止となった結果、生産拠点が移設され、新しい供給業者の拠点が追加されました。また、南米では、供給業者の拠点の優先順位が見直されました。また、一部の供給業者につ

いては、生産停止のため、監査を行わないことになりました。

製剤の内訳としては、プログラムにおける充填業者はやや減少して83パーセント(2018年は86パーセント)となった一方、包装業者は63パーセント(2018年は50パーセント)と増加しました。

シンジェンタでは、パフォーマンスの監査とアセスメントに加え、適切な改善策の特定と実施に向けて、専門家が供給業者をサポートしています。また、安全と環境に関するトレーニングプログラムを実施し、リスクから危機管理に至るまで、さまざまな分野のギャップ解消に取り組んでいます。

シンジェンタは、TfSイニシアチブを通じて、他の化学薬品企業と連携し、サプライチェーンの持続可能性の向上を推し進めています。TfSに加盟することで、持続可能性のあらゆる領域の監査、アセスメントを通じて蓄積された供給業者のデータにアクセスすることができます。

花がフェアトレード製品の需要増に対応

ここでは、有効なGLOBALG.A.P.認証を保持する、シンジェンタおよび第三者所有の花農場の割合を報告します。2019年は、全農場の88パーセントがこの認証を保持しています(2018年は96パーセント)。こうしたパーセンテージの低下は、現在認証申請中の花農家の全体数が増加していることによるものです。

今年は、Kenya Pollen農場がフェアトレード認定を取得しました。この構想の中で2018年6月に認定を取得したKenya Cuttings農場に次ぐ2番目の農場となります。バリューチェーン内でのフェアトレード製品の需要の高まりに対応するべく、認定の取得に取り組んでいます。



アルゼンチンの農村地域の女性にチャンス

公正労働協会 (FLA) による監査の後、アルゼンチンの種子サプライチェーンで改善の可能性があると考えられた分野の1つに、女性の雇用拡大がありました。2018年に、農場作業員および監督者への女性の応募者をより多く募ろうと試験的に募集を行ったところ、大きな関心を引きました。2019年には、この活動を別の種子増殖拠点にも展開しました。この動きは、アルゼンチンの種子サプライチェーンでの成功を礎として、FLA行動規範への準拠を維持しながら継続しています。



アルゼンチンのサプライチェーンでは、多くの女性たちが仕事に従事しています

進捗状況 数値データ

グッドグロースプランの開始以来、独立機関によるデータ収集と検証、第三者機関による保証、実行パートナーによる是認により、進捗報告の強固な基盤を確立してきました。データを公開することで透明性を高め、責任ある行動を推進し、関係者との確かな情報に基づいた対話を促しています。

対象期間: 10月1日～9月30日	基準年2014年 からの累計	2019年	2018年	2017年
作物の生産効率を高める¹				
リファレンスファームの総数		1,659	1,443	1,459
ベンチマークファームの総数		1,928	2,316	2,630
リファレンスファームの土地の生産性向上率		18.8%	13.0%	10.9%
ベンチマークファームの土地の生産性向上率		12.4%	7.0%	7.3%
リファレンスファームの養分効率向上率		46.8%	30.2%	20.3%
ベンチマークファームを上回る成果を上げたリファレンスファーム		57%	64%	-
リファレンスファームの農薬散布効率向上率		33.4%	24.7%	14.2%
ベンチマークファームを上回る成果を上げたリファレンスファーム		33%	38%	-
リファレンスファームの温室効果ガスの排出効率向上率 ²		36.7%	8.8%	14.0%
ベンチマークファームを上回る成果を上げたリファレンスファーム		65%	69%	-
より多くの農地を回復する				
恩恵を受けた農地面積 (単位: 100万ヘクタール)		14.1	3.3	3.4
豊かな生物多様性を促進する				
恩恵を受けた農地面積 (単位: 100万ヘクタール)		8.2	1.8	0.8
小規模農家を支援する				
小規模農家リファレンスファームの土地の生産性向上率 ¹		28.5%	21.9%	21.6%
小規模農家ベンチマークファームの土地の生産性向上率 ¹		11.0%	6.3%	5.1%
トレーニングを通して接触した小規模農家数 (単位: 100万)		6.2	6.1	5.6
製品の販売を通じて接触した小規模農家の数 (単位: 100万)		20.3	13.4	13.9

¹ リファレンスファームは、シンジェンタによって選ばれ、シンジェンタの製品を使用し、最適化された手順に従うように勧められます。ベンチマークファームは第三者の調査機関によって無作為に選ばれ、生産者全体の農法を代表しています。リファレンスファームおよびベンチマークファームは、複数のグループに分けられています。1つのクラスターは、農業気候条件が均一で、そこに含まれるリファレンスファームやベンチマークファームの生産者も似通った特性を持っています。農場データの集計は、収穫シーズンに合わせて行われます。最新の進捗データは2018年に北半球のグループ、2019年に南半球のグループを対象に調査したものです。設定された基準値に照らし合わせたグループの伸び率と最低1年分の進捗データが報告されます。数値は全世界の平均値です。計算手法について詳しくは、www.data.syngenta.com をご覧ください

² 温室効果ガスの排出量は、農場に関する利用可能なデータ、およびデータがない場合はプロキシを使い、CoolFarmToolの計算手法をもとに算出しています。米国の農場データについては、Field to Market: The Alliance for Sustainable Agricultureの手法をもとに算出を行っています

対象期間：10月1日～9月30日	基準年2014年 からの累計	2019年	2018年	2017年
農業従事者の安全を守る				
安全な使用方法に関するトレーニングの受講者数 (単位：100万) ³	42.4	8.6	8.3	8.2
シンジェンタ製品トキシコビジランスプログラム実施国		100	100	100
作物保護製品の売上が占める割合		93%	93%	94%
全ての働き手に配慮する				
Supplier SustainabilityプログラムおよびFair Laborプログラムに参加した供給業者 ^{4,5}		99.0%	98.8%	86.0%
シンジェンタFair Laborプログラム加入率				
シンジェンタの種子生産国 ⁵		88%	88%	68%
種子供給農場 ⁵		99.3%	99.2%	86.0%
そのうち、公正労働協会 (FLA) の監査対象となった農場		100%	100%	67%
そのうち、モニタリング対象となった農場 ⁶		20%	該当なし	20%
Supplier Sustainabilityプログラム加入率				
化学薬品供給業者 ⁷		94%	94%	90%
製剤、充填業者 ⁷		83%	86%	-
包装業者 ⁸		63%	50%	-
倉庫および物流業者の健康・安全・環境保護監査の件数		86	65	117
有効なGlobalG.A.P.認証を持つ花農家		88%	96%	90%
有効なG.R.A.S.P.アセスメント認証を持つ花農家 ⁹		100%	44%	32%

3 「小規模農家を支援する」目標のもと、トレーニングを通して接触した小規模農家の数を含みます

4 Supplier SustainabilityプログラムおよびFair Laborプログラムに参加した供給業者の98パーセントが種子サプライチェーンです。

5 2018年の数値は、報告に間違いがあったため、訂正されています。

6 新たな報告ツールの導入により、2018年度の数値は算出されていません。

7 持続可能性が高リスクまたは中リスクの製剤、充填業者のみが対象となっています。

8 持続可能性のリスクを独自に査定した包装業者が対象となっています。

9 2019年より、有効なG.R.A.S.P.アセスメント認証を持つ花農家の割合には自社農場が含まれますが、前年までは第三者所有の農場も含まれていました。第三者所有の農場にはアセスメントの負担が大きかったことがわかりました。別のパフォーマンス測定方法を検討中です。



情報の開示やファイルへのアクセスに対するシンジェンタのアプローチについては、
こちらをご覧ください：

www.data.syngenta.com

Syngenta AG
P.O.Box
CH-4002 Basel
Switzerland

持続可能性部門
sustainability.syngenta@syngenta.com

www.syngenta.com

© 2020 Syngenta. All rights reserved. 無断転載を禁じます。

編集完了日: 2020年2月

®シンジェンタグループ企業の登録商標

™シンジェンタグループ企業の商標

シンジェンタのワードマーク、シンジェンタのロゴ、グッドグロースプラン、BRINGING PLANT POTENTIAL TO LIFE (植物のちからを暮らしのなかに) は、シンジェンタグループ企業の登録商標です。

グッドグロースプランに関する最新情報

私たちは一年を通じてグッドグロースプランのウェブサイトですべて最新情報を提供しています。このウェブサイトでは、それぞれのコミットメントに関する詳しい情報や、フィールドのさまざまな事例をご覧ください。

 詳しくはこちらをご覧ください。
www.goodgrowthplan.com

情報の開示やファイルへのアクセスに対するシンジェンタのアプローチについては、こちらをご覧ください：

 詳しくはこちらをご覧ください。
www.data.syngenta.com

 詳細情報や「よくある質問」の回答については、こちらをご覧ください：
www.syngenta.com

シンジェンタは、持続可能性に対して設定したコミットメントと、人権、公正な労働、環境保護、腐敗防止に関するポリシーの実施を通じて、国連グローバルコンパクトの10原則を遵守しています。



WE SUPPORT

シンジェンタはグッドグロースプランを通して国連の持続可能な発展目標 (SDGs) をサポートし、プランの掲げる6つのコミットメントがSDGsの目標達成に貢献しています。目標2 (飢餓の撲滅) と目標17 (持続可能な開発に向けた連携) に関しては6つのコミットメントのすべてが達成に直接貢献しており、その他の目標についてもそれぞれに関連するコミットメントが設定されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

 詳しくはこちらをご覧ください。
sustainabledevelopment.un.org

Bringing plant potential to life